

特 許 頤

昭和49年 5 月22日

特許庁長官 殿

1

/ 発期の名称 デカンサクナンロウドウタイセイバウホウ 置換酢酸読導体の製造法

2 発 明 者

アマガサキシムコユタカマチ

兵庫県尼崎市武庫豊町2の5の53の303

ノペマーダー ヨシーノリ 浜 田 芳 徳 「ほかノ名)

3.特許出願人 郵便番号 54/

大阪府大阪市東区道修町3丁目/2番地

ッォノ ギ セイヤタ (192)塩 野 義 製 薬 株 式 会 社

代表者

利 一

4代 理 人 郵便番号 553

大阪市福島区鷺州上2丁目47番地

塩野義製薬株式会社特許部(電話 06-458-5861)

**弁理士(6703) 岩 (** 



5 添付 啓類の 目録

系付啓類の目録 ≥3 552 657

אר ועדאד כע

/通 /通

委任 状

(3) 顧 書 副 本49-058244 / 連



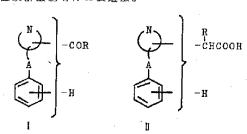
明細書

1.発明の名称

置換酢酸誘導体の製造法

#### 2特許請求の範囲

一般式 I で表わされる化合物にアルコキシメチレン三炭化水素基置換フォスフォランを反応させて得られる化合物を加水分解しついで酸化して一般式 I で表わされる化合物を得ることを特徴とする置換酢酸誘導体の製造法。



(式中、 はピリシン、ピリミシン、イミダゾール、テトラゾールまたはチアゾールを表わし、Rは炭化水素基を表わし、Aは酸素、硫黄、イミノ基または炭化水素置換イミノ基を表わし、 いおよ

### 19 日本国特許庁

## 公開特許公報

①特開昭 50-149668

43公開日 昭50.(1975) 11 29

②特願昭 49-58244

②出願白 昭49. (1974) 5.22

審査請求 未請求

(全8 頁)

庁内整理番号 *5647 44* 6762 44 7306 44 5647 44

③日本分類/6 E35//6 E43/30 B430 C0

1 Int.C1?

CO7DZ77/34

CO7DZ77/36

CO7DZ77/42

CO7DZ/3/62

CO7DZ/3/74/

A61K 3//425

び上記ベンゼン環は反応に影響を及ばさない!~3個の置換基を有していてもよくあるいは縮合ベンゼン環または縮合脂環を有していてもよく-COR基はこの縮合ベンゼン環上にあつてもよい。但しいチアゾールでない場合は、Aは酸素または硫黄を表わす。)

#### 3発明の詳細な説明

本発明は置換酢酸誘導体の製造法に関し、その 目的は優れた抗炎症作用(抗リウマチ作用も含む) および鎮痛作用を示し医薬または動物薬として有 用な置換酢酸誘導体を得る点にある。

本発明方法の要旨は次式によつて示される。

$$\begin{array}{c} \begin{array}{c} \begin{array}{c} \\ \\ \\ \\ \end{array} \end{array} \begin{array}{c} \\ \\ \\ \end{array} \begin{array}{c} \\ \\ \end{array} \begin{array}{$$

「式中、」はピリシン、ピリミシン、イミダゾール、テトラゾールまたはチアゾールを表わし、Rは炭化水素基を表わし、Aは酸素、硫黄、イミノ基または炭化水素置換イミノ基を表わし、いたはないでもよくあるいは縮合ベンゼン環またば縮合脂環を有していてもよく、一COR基はこの縮合ベンゼン環上にあつてもよい、Rはアルキル基を表わす。但し、かチァゾールでない場合は、Aは酸素または硫黄を表わす。)

本発明方法は一般式「で表わされる化合物をアルコキシメチレン三炭化水素置換フオスフオランと反応させるいわゆるウイティッヒ (Wittig)反応に付し(反応①)、得られる化合物皿を加水分

#### - 3 -

反応させるのが通常実務的である。反応は通常不活性気流中で行われる。得られる化合物皿はついで反応②すなわち加水分解反応に付し、アルコキシメチレン基をアルデヒド基にする。この加水分解は通常エノールエーテルを加水分解する際に用いられる手段を用いることができる。例えば、酸・して塩酸、硫酸、硝酸またはこれらと有機酸(例えば、酢酸)などとの混合物を用いることができる。性成する化合物では、ない、は含水溶媒の存在下で加熱することにより実施される。生成する化合物できる。単離することなく次工程③に付すことができる。

反応③は化合物№のアルデヒド基をカルボキシル基に変えるもので一般のアルデヒド基をカルボキシル基に変換する酸化反応に準じて行えばよい。例えば過マンガン酸カリウム、過酸化水素、酸化銀などにより水中または有機溶媒中で酸化してもよいし、硝酸、クロム酸、希硫酸と過酸化鉛、または過酸化酢酸などにより酸化してもよい。なお上記反応①、②および③の工程において反応を受

特開 昭50-- 149 668 (2) 解に付し化合物Ⅳとした(反応②)後酸化反応に

付して目的とする置換酢酸誘導体 [を得る [ 反応 ③) ものである。

次に本発明方法の実施について詳細に記する。 反応①は通常のウイティッヒ反応に従って行えば よく、種々のアルコキシメチレン三炭化水素置換 フオスフオラン(例えば、メトキシメチレントリ フエニルフオスフオラン、メトキシメチレントリ (メトキシメチル) フオスフオラン、エトキシメチ レントリプチルフオスフオランなど)が原料化合 物と反応条件に応じて適宜選択し使用される。例 えば、上記フオスフオランにハロゲン化水素が付 加したフォスフォニウム塩を使用し、有機金属( 例えば、フエニルりチウム、ブチルリチウムなど) を用いてエーテル類(例えば、エーテル、シビニ ルエーテル、テトラヒドロフランなど1中で必要 に応じて加温下で化合物「と反応させるか、ある いはアルカリ金属アルコキサイド(例えば、ナト リウムメチラート。ナトリウムエチラートなどり

#### - 4 -

を用いアルコキサイドと対応するアルコール中で

ける環上の置換基は各反応の前後に置換基を修飾 することにより、最終において目的化合物を得る ようにすることができる。

かくして得られた化合物』はさらに分離、精製あるいは製剤化、その他の必要に応じて、適当なアルカリ金属塩(例えば、ナトリウム、カリウムなど)、アルカリ土類金属塩(例えば、カルシウム、マグネシウム、バリウムなど)、その他アルミニウム塩などに常法に従つて変換することができる。

本発明方法の目的化合物である置換酢酸誘導体 及びその塩類は優れた抗炎症作用(抗リウマチ作 用も含む)または鎮痛作用を示し、医薬または動 物薬として有用な化合物である。

以下実施例において本発明方法の実施態様を示

#### 実施例/

粉末にしたメトキシメチレントリフェニルフォスフオリウムクロライド23249をエーテル240sに懸濁し、内温15~20°Cで1125

特開 昭50-149668 (3)

モルフエニルリチウムエーテル溶液 60 mlを滴下後/5°Cで/5分間かきまぜる。2-フェノキシー5-アセチルピリジン2/4gのエーテル溶液/40 mlを30分で滴下後室温で14時間かきまぜる。不溶物を沪去し沪液に氷水を注ぎエーテルで抽出する。抽出液を水洗、乾燥後溶媒を留去し残渣/2629をシリカゲルカラムクロマトに付す。ベンゼン/酢酸エチル(50:1)溶出部を減圧蒸留すると DPQ 6mlly /47~/49°C の2-フェノキシー5-(/-メチル-2-メトキンビニル)ピリジン5429を得る。

元素分析 C<sub>/3</sub>H<sub>/3</sub>O<sub>2</sub>N として 計算値: C,7466; H,627; N.589 実験値: C,7494; H,637: N,579 IR V<sup>CHCl3</sup>3 cm / /658,/590 NMR &(CDCl<sub>3</sub>) /88,/95(3H,d),/367.

、本品!469を2N塩酸50mに加え、窒素気流中一夜かきまぜた後反応液にベンゼン!0mを入れ窒素気流中過マンガン酸カリウム!39の水

370(3H,s),6/2,633(3H,q)

- 7 -

Ca(nH<sub>2</sub>O): カルシウム塩(n水和物を装わす) Al:アルミニウム塩 d:分解点

(以下余白)

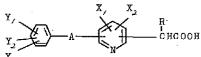
溶液30×1を20分で滴下さらに窒温で10分間かきまぜた後不溶物を沪去し沪液を炭酸水素ナトリウムで阻3~4としてエーテルで抽出する。抽出液を53炭酸水素ナトリウム水溶液で抽出し10%塩酸で阻4とした後エーテルで再び抽出する。抽出液を水洗、乾燥し溶媒を留去する。残渣610物をベンゼン/石油エーテルで再結晶するとや88~90℃の2~(2~フェノキシー5~ピリジル)プロピオン酸210物を得る。本品は他の方法により調製された標品と同定された。

実施例2

以下実施例!と同様にして下記の化合物を得る。なお、下記表中で用いられる略号は下記の意味を表わし、A 欄において例えばュー0はピリジン環の2位がエーテル結合していることを表わし、X 、 $X_2$  Y 、 $Y_2$   $Y_3$  概において例えば  $\psi$  - Q  $\psi$  はクロルが母核の  $\psi$  4 位を置換していることを表わす。

Me:メチル基 Met:メトキシ基 Et:エチル基 iso-Bu:イソブチル基 Ac:アセチル基 An:アニリノ基 CH,-♥:シクロプロピルメチル基

-8-



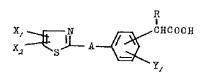
		Υ.,			N.					
実施	- 1	R I -CHCOOH の位置	R	- A -	Х,	Х,	Υ,	Y,2	Y,	⊌b ( <sub>e</sub> C )
ے	2	3	Me	<i>5</i> – 0	H	H	H	H	H	135~135.5
غ ا	3	4	Мe	2 - 0	н	H	4-Cl	H	H	//9~/20d
4	٤.	4	Мe	<b>2</b> — 0	н	H	Н	H	н	98~99d
		¥	Me	2 - 0	H	H	2-C#	H	H	107.5~108.5d
	5	#	Мe	z-0	H	H	3-Cℓ	Н	H	84~85d
2	7	3	Me	<b>2</b> – 0	H	Н	<b>4</b> -Cℓ	Н	Н	110~111
a	7	3	Me	2-0	H	H	H	H	H	94~95
9	7	3	Ме	<b>6</b> – 0	Н	H	4-Cl	H	H	114~115
/	o	.2	Me	& <b>−</b> 0	H	H	H	H	н	Ca(2H <sub>2</sub> 0)/35~/36
/	/	2	Мe	<u>د</u> – 0	H	Н	4−Cℓ	H	Н	Ca(2H20)80~8/d
/	2	4	Мe	2-S	H	H	. 4-Cℓ	H	H	Al64~65
1	3	#	Me	2 - 0	Н	H	#-Met	H	H	129~130d
/	4	4	Ме	2 - 0	Н	H	4-Me	H	Н	101~102d
/	5	3	Мe	6 - S	Н	H	H	H	H	114,5~115.5
/	6	3	Ме	۵ <del>-</del> 0	H	H	<b>4-M</b> e	H	H -	98~99
/	7	#	Me	2-3	H	H	H	H	H	Ca(½H <sub>2</sub> O)/40~/4/
/	8	3	Ме	6 <b>-</b> 0	H	H	4-Met	H	H	Ca(/H20)/55
/	9	#	Et	2 - 0	H	H	4-Cl	H	H	92~93
2	0	3	Мe	6-0	H	H	3-Cl	H	H	106~107
2	/	#	Мe	2-0	H	H	4-CN	H	H	105~106d
2	.2	3	Et	8 – Q	H	H	4-0l	H	H	Al236
2	3	#	Мe	2 - 0	H	H	4-COOH	н.	H	154~156d
2	4	4	Мe	2-0	H	H	3-CF <sub>3</sub>	H	H	Ca(2H <sub>2</sub> O)/55~/57
,2	5	3	Мe	4 - S	Ħ	H	4-C&	H	H	Ca(H <sub>2</sub> O)/50
2	6	4	Me	2 - O	H	H	4-CONH <sub>2</sub>	Н	H	160~162 200~201 (発泡)
2	7	4	Мe	2 - 0	H	H	4-0H	H	H	Ca(4H <sub>2</sub> O)/87~/89
2	8	4	Мe	2-0	Ħ	H	4-QAc	H	H	Ca(ZH <sub>2</sub> O) /325~/335
2	9	3	Мe	<b>6</b> – <b>0</b>	H	H	4-OAc	H	H	Ca(#H <sub>2</sub> O)/#5
3	0	3	Мe	$\mathbf{r} - 0$	H	H	<b>4</b> −0 H	H	H	Ca(H <sub>2</sub> 0)205
3	/	4	Мe	2-0	H	H	4-100 <sub>2</sub>	н	H	115~116d
3	,2	4.	Мe	2-0	H	H	4-NH <sub>2</sub>	H	Ħ	/32~/33d
3	3	4	Мe	2-0	Ħ	H	4-NHAc	H	H	142~143d
3	4	4	Me	2 0	Н	Н	4-NHCOOEt	Н	Н	/36~/37 d

実施例	R -CHCOOH の位置	R	- A -	x,	Х,	Y,	Υ,	Y3	πp (*C ) .
35	4	Мe	2-0	Н	Н	4-NHCO	An H	Н	206~208d
36	3	Мe	6 ~ 0	H	H	4-Br	Н	H	119~120
37	4	Мe	2-0	H	H	3, 4	ーペング	H	138~139d
38	3	Me	<b>e</b> – 0	H	H	4-CN	H	Н	120~121
39	3	Мe	۷ — 0	4⁄-Me	H	H	H	H	135~136
40	3	Ме	<u>د</u> – 0	2-Me	H	H	н	H	92~93
4/	3	Me	<b>6</b> – 0	H	H	2-Me	<i>3</i> -Me	H	115~116
42	3	Мe	<b>4</b> – 0	H	H	.2-Cℓ	H	H	96~97
43	3	Me	<b>ĕ</b> − 0	H	H	2-Me	H	H	65~67
44	3	Me	6-0	H	H	<i>3</i> Me	H	H	8/~82
45	3	Ме	<b>6</b> – <b>0</b>	H	H	3-Me	<i>5-</i> Me	Ħ	120~121
46	3	Мe	6 — O	H	H	<i>3</i> -Me	4-Me	H	90~91
47	3	Me	<b>4</b> − 0	H	H	H	н	H	145~146
48	3	Мe	<b>ሪ</b>	H	H .	4-iso-1	Bu H	H	77~78
49	4	Мe	<b>2</b> - 0	H	H	.2-Me	3-Me	H	86~87đ
50	3	Me	6 - 0	<i>5</i> −Me	H	H	H	H	107~108
5 /	3	Me	6-0	H	H	2-Me	5-Me	H	Ca(2H2O)/95d
52	3	Me	୫ – ପ	Н	H	2-Me	4-We	Н	Ca(2H <sub>2</sub> 0)/89d
53	3	Мe	6-0	H	H	.2-Me	6-Me	H	Ca(/5H <sub>2</sub> O) 202d
54	4	Мe	<b>2</b> – 0	H	H	3-Me	4-Me	H	123~124d
55	4	Мe	<b>.</b> 2 — 0	Н	H	<i>3-</i> Me	<i>5</i> -Me	H	103~104d
56	3	Me	<b>4</b> — 0	H	H	-2-Me	3-Me	5-Me	128~129
57	3	Me	<b>6</b> – 0	H	H	2-Me	4-Me	<i>5</i> -Me	113~114
58	3	Me	6-0	H	H	<i>3</i> −Me	4∕-Me	_5 −M e	155~156
59	3	Мe	۷ – ٥	H	H	∠ Me		∡-Me	135~136
60	3	Me	∠ — 0	H	H	3,4-( C)	H <sub>2</sub> ) <sub>4</sub> -	H	Ca(15H20)/69d
6/	4	Мe	2-0	H	H	.2−Me	<i>3-</i> Me	s-Me	125~126d
62	4		2 - 0	H	H	<i>3</i> -Me		5-Me	126~127d
6.3	3	Мe	<u>د</u> – ٥	H	H	23-1 CF	I <sub>2</sub> ) <sub>4</sub> -	H	Ca( /.5H20) / 65~/66d
64	3	Мe	6 – 0	H	H	3,4.	- ベンゾ	H	1205~121.5
65	3	Me	6-0	H	H	2.3	- ベンゾ	H	/3/~/32
66	3	Мe	<b>2</b> - 0	<i>4</i> −Me	<i>5</i> −Me	H	H	H	144~145
67	4	Мe	2 - O	5,6-	ペンチ	H	H	H	Cal 15H <sub>2</sub> O)216~217
68	3	Ме	<b>4</b> – 0		ーベンチ	H	H	H	122~123
69	3	Мe	6 — O	4,5~	(CH <sub>2</sub> )		H	H	151~152
70	3	Мe	6 — D	H	H	3.4-1 CH	· • -	H	1225~1235

実施例	R - CHCOOH の位置	R	- A -	х,	X,	Υ,	Y,2	Y <sub>3</sub>	#P(°C)
71	3	Ме	6-0	H	Н	3-Met	Н	Н	69.5~70.5
7.2	3	Me	<b>%</b> — 0	_2-Me	4-Me	·H	H	H	Ca(15H,0)218d
73	3	Me	ሬ 0	H	H	<b>4-0H</b>	H	H	167~169
74	3	Me	6 — O	Н	Н	4-Ac0	H	Н	161~162

実施例 必	х,	X <sub>2</sub>	ブエノキシ <u>基</u> の位置	Υ,	R CHCOOH の位置	<i>wb</i> ( <sub>0</sub> C )
75	Н	H	2	H	3	76~77
76	H	H	2	. Н	4	129~130
77	z-cn	H	2	н	4	198~200
28	5-CONH <sub>2</sub>	H	2	Н	#	2//~2/2
79	H	H	3	H	4	130~131
80	H	H	4	H	4	180~181
81	34-1	CH <sub>2</sub> ) <sub>4</sub> -	2	H	4	166~167
82	3, 4 - ~	ンゾ	2	H	4	145~147
83	3-Ме	4-Me	2	H	4	1555~156
84	4−Me	5-Me	2	H	4	142~143
85	<b>4-Me</b>	H	.2	H	4	123~124
86	6-Me	H	.2	H	4	Ca(H <sub>2</sub> O)273~275
87	3-Br	H	2	H	4	137~138
88	.2-Me	H	4	H	4	152~153
89	5-Me	H	.2	H	4	132~134
90	<i>3-</i> Me	H	.2	H	4	12/~/22
91	H	H	· 2	.2-Me	. <b>4</b>	107~108
92	H	H	2	2-Met	4.	Ca(#H20) /58d
93	<b>※</b> /	Н	2	H	4	136~138

実施例 <i>K</i> 6	Y,	Y_2	A	<b>x</b> , .	CH。 - CHCOOH の位置	. #₽(°C)
94	Н	Н	0	<b>4-Me</b>	5	110~111
95	2-Me	<i>3-</i> Me	0	4-Me	5	142~143
96	3-CF3	H	0	<b>4-</b> Me	5	Ca(/sH <sub>2</sub> O)/06d
97	4-Me	H	0	4-Me	5	//8, Ca(2.5H20) /46d
98	4-C&	H	0	<b>4-M</b> e	5	93~94. Ca(25H <sub>2</sub> 0)/33
99	H.	H	s	4-Me	5	128~130
100	H	Н	٥	H	5	Ca(15H20)169~170d
101	4-C&	Н	0	н	5	Ca(H <sub>2</sub> O)/45d
102	н	н	NH	4-Me	5	/45d
103	3-CF3	Н	NН	4−Me	<i>5</i>	195d
104	H	H	0	H	4	Ca(25H <sub>2</sub> O)/42d
105	H	H	0	5-Me	4	Ca(25H20)/42d
106	4-C&	H	0	H	4	Ca(25H20)/33~/35d
107	#-C €	H	0	5-Me	4	Ca(25H20)/34~/36
108	н	H	N-Me	H	4	79~80d
109	н	H	N-Me	⊬-Me	5	141~142
110	H	H	<b>パ</b> ーアリル	4-Me	.5	106~107
111	н	H	N-CH <sub>2</sub> -	¶ 4-Me	5	120~121
112	н	H	N-Me	H	5	198~200
//3	н	н	Nープリル	H	\$	134~135
114	н	Н	N-CH,-	1 н	#	Ca(3H <sub>2</sub> 0)/80~/83
115	H	н	n-ベンジル		4	Ca(H <sub>2</sub> O)/20~/25d
116	н	H	N-アリル	H	4	Ca(2H,0)/73~/78d



実施例	х,	X,2	A	Υ,	R -CHCOOH の位置	R	咿(*C)
117	H	н	0	Н	4	Me	119~120
118	4-Me	<i>5-</i> Me	0	Н	4	Me	122~124
119	<b>⊬</b> −Ме	H	0	H	4	Ме	87~88
120	H	H	0	2-Met	4	Мe	Ca(H,O)/75d
121	н	H	0	Н	4	アリル	Ca(H <sub>2</sub> O)/34d
122	H	H	0	·H	.3	Мe	2 88~89
123	Н	H	N-Me	H	4	Me	123~124
124	H	H	N-アリル	H.	4	Ме	118~119
125	H	H	0	H	4	Et	115~116
126	Н	H	0	H	4	ペンジル	121~122
127	H	H	0	H	4	<b></b> *2	99~100
128	H	H	О	H	4	<i></i> 3	111~112
129	H	H	0	H	4	-СН <sub>2</sub> ∢	85~86
130	H	H	0	2-Me	4	Me	93~94

**※2** -CH<sub>2</sub>C≅CH

×3 -CH2CCH3=CH2

- / 4 -

実施例/3/~/34

実施例!と同様にして下記の化合物を得る。

ユー(ムー(ユーピリジルオキシ)— ユーナフ チル)プロピオン酸、Ψ / タク~/ 98℃。

ユー〔4ー〔ノーフエニルーノユミ4ーテトラ ゾリルオキシ〕フエニル〕プロピオン酸、Ψ/65 ~/66℃。

2-(4-(2-ピリミジルオキシ)フエニル) プロピオン酸、卵1ク4~1タ5℃。

ユー〔4ー(1ーメチルーユーベンズィミダゾ イルオキシ)フェニル〕プロピオン酸、卵184 ~185℃。

特許出願人 塩野義製薬株式会社 代 理 人 弁理士 岩崎 光隆 4.前記以外の発明者

サカイシサンジョウドオリ 大阪 府 堺 市 三 条 通 2 の s オカ ダ デッ オ 岡 田 哲 夫



特許法第17条の2による補正の掲載 昭和49年特許顯第58244 号(特開昭 50-149668 号 昭和50年//月29日 発行公開特許公報50-1497 号掲載) については特許法第17条の2による補正があったので 下記の通り掲載する。

庁内整理番号	日本分類
6762 44 7306 44 5647 44 5647 44	16 E351 16 E431 30 B4 30 C0
	1

手続補正書

2字削除

昭和 53年 6月 19日

特許庁長官 殿

/事件の表示 昭和 49 年特許願第 58 2 4 4 号 2 発明の名称

置換酢酸誘導体の製造法

3補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 大阪府大阪市東区道修町3丁目/2番地

名称 (192) 塩野義製薬株式会社

代表者 吉 利 一 加

4代 理 人

住所 大阪市福島区鷺洲5丁目12番4号

塩野義製薬株式会社特許部

(電話06-458-5861)

氏名 弁理士(6703) 岩 崎 光 隆

- 5 拒絶理由通知の日付 昭和 年

<u>or</u> J

<u>ال</u> \_ \_ ال

#### 5.補正の対象

明細書の発明の詳細な説明の欄

#### 6.補正の内容

(1)明細書 8 頁 / / 行目の「実施例 2」を「実施 例 2 - / 3 0」に訂正する。

(2)同書/2頁実施例87のX/欄の「3-Br」を「5-Br」に訂正する。

(3)同書 / 5頁の実施例 / 3 / ~ / 3 4 の次に下 記の実施例 / 3 5 ~ / 6 9 を追加する。

#### 「実施例/35~/69

実施例 / と同様に反応操作し,下記の化合物を 得る。

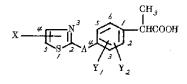
(以下余白)

実施例 %	Υ,:	Y <sub>2</sub>	πρ(°C)
/ 3 5	2 - M e	Н	150~151
136	3 - C &	H	98~99
137	2-Ce	H	145~146
138	3 - C &	5 - C @	127~128

実施例	Y	*	wb (.C.)
139	i -Pr	3	89~91
140	Pr	3	8 1. 5 ~ 8 2. 5
141	t-Bu	3	1/2~//3
142	s-Bu	3	67~7/
143	Bu	3	Ca ·H <sub>2</sub> O / 40 ~ / 42
144	i—Ba	3	Ca //4~//9(d)

※ プロピオン酸残基の置換位置

# 昭 5311.18 発行



実施例	Х	A	Υ,	Y ,2	ण(°C)
145	Н.	0	_2-Me	H	120~121
146	Н	0	3-C#	H	115~116
147	н	0	2-C6	н	86~87
148	Н	NМе	3-Ce	н	Ca · 4H <sub>2</sub> O /75~/78
149	н	s	Н	Н	85~87
150	н	0	2-Ce	<i>3</i> —Me	147~148
151	н	0	<i>3</i> —F	H	107~108
152	H	0	2-Me	5-Ce	130~131
153	н	NH	3-C#	н	144~145
154	<b>4</b> Me	NH	2-C#	H	185~188
155	<b>4</b> Me	NH	3—F	п	163~164
156	4–Me	NH	_2-F	H	202~204
157	н	NH	<i>2</i> ~ F	н	190~191.5
158	н	NH	3-0 e	5-C¢	177~178.

-				г		
ı	159	4-Me	N-Me	3-Ce	5-Ce	138~139
	160	4-Me	NH	3—Ме	н	201~202
	161	н	N-Me	3-C@	5-C@	180~181
	162	Н	N-Me	.2-F	Н	111~112.5
	163	H	0	.2F	н	74~75
	164	Н	NH	3F	Н	160~161
ĺ	165	п	N—Me	<b>2</b> Me	H	165~166
	166	н	N-Me	3 F	н	98~100
	167	н	NH	2-Ce	Ħ	174~175
	168	н	NH	2Me	н	160~161.5
L	169	н	NМ.е	2-Ce	Ħ	141~142

各表中の略号は以下の意味を表わす。

i-Pr:イソプロピル基 Pr:プロピル基

t-Bu:tーブチル基 s-Bu:sec-ブチル基

i-Bu:イソブチル基。その他の略号は前記の意味を表わす。

以上